

■（１３６）平和の夏に思う 心に響く言葉、消えた言葉

テレビで朝日新聞が大々的にCMを流すなんて、それまでは考えられなかった。7年前の話だ。ジャーナリストの原点に戻ると宣言する内容だった。キャッチフレーズは「それでも私たちは信じている、言葉のチカラを」。反響は大きく、多くの広告賞も受けた。

平和をあらためて考える夏。最も記憶に残った言葉は、長崎原爆の日の市長による平和宣言だった。若者へのメッセージが盛り込まれていた。「あなた方は被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代です。なぜ被爆者は未来のために身を削りながら核兵器廃絶を訴え続けるのか。被爆者の声に耳を傾けて下さい」。優しく淡々と語りかける口調が、余計に強い意志を感じさせた。一方、消えた言葉もあった。終戦の日の式典のあいさつで、首相は「加害責任」「不戦の誓い」を口にしなかった。自らも含めて歴代首相が20年間繰り返して来たフレーズだったのに、なぜか。消えた部分からも記者は何かを読み取ろうとする。

チカラの源となる語彙力を計る簡易テストに挑んでみた。順に難くなる熟語が50語並ぶ。どこまで理解できるか。結果は30数番目。まだ努力が足りないと言っています。(山)